

いな穂

Vol.8

平成30年
4月号

—— 基本理念 ——

自由（個人の尊重を重視）、
自立（社会支援の積極的な取り組み）、
愛（思いやり溢れるサービスの提供）
を不変のテーマとした医療・保健・
福祉の実践

—— 基本方針 ——

地域に根ざした医療、人にやさしい医療を
確立し、向上心をもって常に努力する

—— 七指針 ——

1. 生命尊重に徹すること
1. 事故防止に努める事
1. 常に創意工夫を怠らないこと
1. 能率増進を図る事
1. 常に融和連携を保つこと
1. 消費節約に努める事
1. 行動記録を的確に記すること



「No Limit !!」

医療法人慧眞会 理事長 穂積 慧

平昌冬季五輪で、史上最多13個のメダルを獲得して2月25日閉会式を終えた。

観る者に感動感激を与えてくれたが、選手たちは何をモチベーションにここまで打ち込められたのか、それは自分への挑戦であろう。誰のためでもなく、自分という力に対峙し、それを超えることにより満足を得るという孤独な戦いである。

色々な支えや助けが陰で選手たちを後押ししてくれた

が、最後は自分の努力であろう。努力が結果をもたらしてくれる。それは、1回の努力ではなく多くの積み重ねの努力が必要とされている。

全ての事は、一步から始まる。その一步をまず自ら踏み出してみよう。”No Limit !!”

勝つ者には翼が芽生え、いつの間にか空を飛ぶ（皆の上に立つ）



協 和 病 院



ご縁がないところにご縁あり

協和病院 院長 善本 正樹

人生は、ご縁の繋がりがあって、豊かになります。人は、生まれてから死ぬまで、どれだけのご縁に恵まれるのでしょうか。出産、進学、就職、死など人生の大切な局面に遭遇しながら数えきれないご縁があるのでしょうか。人は誰でも良いご縁に恵まれないものだと願います。ご縁に恵まれるためにはどのように行動すれば良いのでしょうか。

まず思い浮かべるのは、良いご縁を求めて、探し歩く方法です。しかし、一度その方法で良いご縁に恵まれたとき、人は欲深いものであることから、もっと良いご縁を求めて探し求めます。その結果、良いと思ったご縁でも、悪いご縁に会ってしまうことがあります。良いご縁を求めたいと欲望丸出しで行動していると、とんでもないしっぺ返しがありそうで良い方法と言えません。

次に思い浮かべるのは、ご縁を探すのではなく、ご縁が来るのを待つ方法です。じつにご縁が来るのを待つという忍耐強さが必要ですが、いつ来るかわからないご縁を待つことは、同時に時間がどんどん経って、無駄な時間がかりそうです。この方法では、大切な人生の時間が有効に使えないような気がします。もう少し、時間を有効に使う方法が必要です。

そこで、私が提案するご縁を探す方法が、ご縁のないところにご縁を見つける方法です。ご縁は、最初からご

縁と決まっているわけではありません。ご縁であるか、そうでないかは、会ってみないと分かりません。ご縁に会ってから、良いか、悪いかを判断するものです。ですから、最初から良いご縁を探し求める態度はやめて、まったくご縁がないことでも、とりあえず行動を起こすことが大切です。例えば、（私の実際の話ですが）興味のない集まりがあつたけれど出席したら興味が沸いた、その集まりでは仕事も全く関係ない出席者と意気投合して仲間が出来た、仲間が集まり旅行やイベントへ行くようになって交友関係が広がった、家族のような付き合いとなった、などです。このようなケースでは、年齢や性別に関係なく、不思議な良いご縁が次々と起こるものです。私は結構そんな体験をしています。

つまり、ご縁を見つける方法は、①興味ないことをやってみる ②関心なくとも参加する ③面倒くさいことをする。サントリーの創始者鳥居信次郎の有名な言葉である、とりあえず“やってみなはれ”の精神です。欲を出さずに行動すれば、きっと世界は広がり、良いご縁の繋がりを生むのだと思います。

ご縁のないところにご縁あり。人生は面白くて、目が離せません。

協 和 病 院 の ご 案 内

＜診療時間＞ 午前9:00～12:30 午後1:30～5:00

＜休 診 日＞ 土曜、日曜、祝日

＜届出している施設基準＞

- 療養病棟入院基本料1(57床) ●精神療養病棟入院料(120床)
- 医療安全対策加算2 ●入院時食事療養費(I) ●感染防止対策加算2
- 患者サポート体制充実加算

【内 科】 ●療養病棟療養環境加算1 ●認知症ケア加算1

【精神科】 ●精神科作業療法 ●医療保護入院等診療科 ●重症者加算1 ●退院調整加算
●精神科地域移行実施加算

【外 来】 ●ニコチン依存症管理料



看護部

20年ぶりの病院勤務となって

協和病院 3病棟 看護師長 奥田 チエ子

昨年10月に約20年間勤務していた介護老人保健施設サングレイスから、慢性期精神科開放病棟に勤務異動となり、早5ヵ月が過ぎようとしています。

私が看護師になって初めての勤務先が精神科の開放病棟でした。その頃は若くて（笑）無知であることに恐れを感じることもなく働いていました。今思うと怖いことです。その時の先輩方が教えてくれた「患者への対応・距離感の取り方」や「観察の方法」など思い出されます。約30年前の精神科看護ですが、現在の看護にも通じる言葉や技術を授けてくださり、そして育てて頂いたことに感謝し、日々それらを再確認しながら働いています。

高齢化社会において、精神科病床にも高齢化の問題は生じています。また、長期慢性期を中心とした精神科医療から退院支援リハビリ、地域生活支援を目指す医療が求められています。

多職種との連携、介護と医療そして地域との連携は今後更に重要な課題です。協和病院の基本方針「地域に根ざ



した医療、人にやさしい医療を確立し向上心をもって常に努力する」を改めて胸に刻み、自分に叱咤激励をしています。

介護施設と病院の現場は違っていても、見てあげているのではなく、看させて頂いているという思いで、職業人（看護師）として常に今よりも高みを目指したいものです。仕事に対するモチベーションは人それぞれに違いますが、同じ志をもち、同じ気持ちで高い志を目指す喜びを新たな仲間と一緒に感じていきたいと思っています。

よろしくお願いします。

医務部（薬剤科）

全国の精神科薬剤師がうらやむ協和病院

薬剤科 村田 篤信

「協和病院？」←「欧米かつ！」

私が協和病院にお世話になり3年目に突入し、他の病院の人から「欧米かつ！」と、ツッコミを受けることが多々あります。それは、当院の抗精神病薬の単剤化率（1剤だけ使用する患者割合）が欧米並みの8割近く、という話題の時です。当院の単剤化率ランキングは、全国で5位（約130施設中）という驚異的な高さです。

抗精神病薬は単剤使用が望ましく、全国の病院で四苦八苦しているのですが、日本全体の単剤化率は4割にとどまっています。これには、薬に対する評価が正確でない事が、大きく関係していると私は考えています。

薬の効き目を正確に考えるために

薬の効き目の目安に、NNT（効き目を一人に発揮するため、投与する必要がある人数）という指標があり、これが少ないほど効き目が出やすいと考えます。例えば、降圧剤による脳・心血管イベント防止に関しては60ですが、抗精神病薬は17～19です。単純に考えれば、抗精神病薬は降圧剤の3倍効きやすいということになりますが、実際はどうでしょう？これまで、「薬を大量に処方されていても落ち着かない」と聞いていた方が、入院したら薬はそのままでも大丈夫で、むしろ単剤化する事で作業療法、地域移行にこぎつけたケースを目にしてきました。この事は、環境調整や患者対応の工夫が大事であることを物語っています。

話をNNTに戻すと、この数字には落とし穴があります。抗精神病薬の17～19という数字は、あくまでも「精神症状の

緩和」という目線で評価した数字であって、「おとなしくさせる（副作用の可能性大ですが）」とか、「地域移行の達成」などは考慮されていません。結局は、単剤治療が当たり前という現場感覚で薬物治療を考えることがとても重要であり、これは当院の持つ最大の強みでもあると思われます。



薬の限界や患者さんらしさをわきまえた対応や、地域で患者さんをみるという考えがあれば、単剤化率が高まるのは自然な事です。高い単剤化率は様々な患者さんに対応できる、スタッフの皆さんの力量を反映した数字だとも考えられます。薬品購入費も最小限になるので、病院経営を考えれば院外処方箋にして病院在庫を減らす流れになるのも自明です。

薬剤師にとって病棟は天国か？

私は、病棟で皆さんや患者さんから多くの刺激を受けています。先生方からは、どんな教科書にも載っていない、患者さんとの向き合い方を教えて頂いています。また、先生方に薬の提案をする際は、各職種の皆さんとの何気ない会話が参考になっています。まるで、給料を頂きながら、精神科薬剤師として必要な勉強をさせてもらっているようなものです。このような時間を私に与えてくださる薬剤科の皆さんを含め、当法人の皆様にはただただ感謝を申し上げるばかりです。もし可能だったら、たくさんの薬剤師に同じ経験をしてもらえたらなあ、毎日思っています。

ケイメンタルクリニック便り

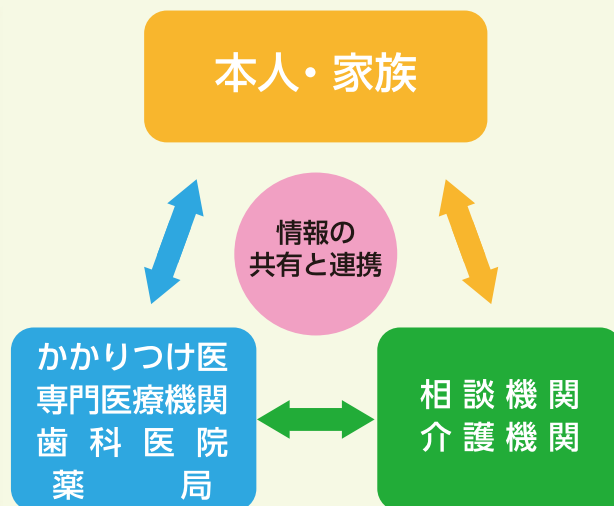
だいせん支えあい手帳をご利用ください

○だいせん支えあい手帳とは

高齢者が認知症になっても住み慣れた地域で暮らしていくために、日常生活で起こる様々な支障に対して、その状況に応じた適切なサービスを提供する流れのことを認知症ケアパスといいます。

大仙市では医療と介護の連携を中心に、医療、介護サービス、民間サービス、市の事業、地域住民やボランティア活動などの社会資源や、病歴やケアマネージャーなど高齢者の基本情報を記載できる市独自の認知症ケアパス手帳（だいせん支えあい手帳）を作成し、平成27年12月から本格運用が開始、各種機関と連携を図りながらその普及に努めています。発行機関は大仙市内に11ヶ所（当法人からは協和病院とケイメンタルクリニックの2ヶ所）、当院もその一つとして、平成30年3月1日現在18名の方に利用していただいています。

公的機関や医療機関、薬局などでポスターを目にされることもおありかと思いますが、利用してみたい方や興味のある方がおられましたら、お気軽に下記発行機関までお問い合わせください。



○発行機関

高齢者あんしん相談室中央（市役所大曲庁舎内）	TEL 0187-63-1111
高齢者あんしん相談室東部（中仙庁舎内）	TEL 0187-56-7125
高齢者あんしん相談室西部（西仙北庁舎内）	TEL 0187-87-3970
高齢者あんしん相談室南部 （大仙市健康福祉会館内）	TEL 0187-88-8030
高齢者あんしん相談室協和	TEL 018-892-3838
秋田県認知症疾患医療センター （県立リハビリテーション・精神医療センター）	TEL 018-892-3751
市立大曲病院	TEL 0187-63-9100
協和病院	TEL 018-892-2881
ケイメンタルクリニック	TEL 0187-66-3020
木村内科医院	TEL 0187-63-2070
生和堂医院	TEL 0187-75-0318
荒井医院	TEL 0187-63-2670
後藤内科医院	TEL 0187-62-1113

TEL:0187-66-3020 FAX:0187-63-0041 〒014-0027 大仙市大曲通町10番8号



サンメンタルクリニック

精神保健福祉士 渡辺 尚

サンメンタルクリニックは2年目の春を迎えようとしています。皆さんお元気でしょうか。

今回は当紙面をお借りしてサンメンタルクリニックのデイケアプログラムのひとつとして行っている「語りの場」について御紹介致します。

本来の力を失っている状態から持っているはずの力を取り戻すこと（エンパワメント）

その人の強みである才能、性格、関心などを大事にし引き出していくこと（ストレングス）

悩みが続いても人生の新しい意味や目的を見出し充実した人生を送ること（リカバリー）

これらを目的に「仲間」同士がお互いの思いを伝え合い「支えあう」場としてこのプログラムを設けました。

あるメンバーから発病する経緯を語ろうと発言があり、自己紹介とともに、受診に至るまでの経緯を赤裸々に話して頂きました。その後はメンバー全員が自分の経緯を話してくれました。おそらくドクターも知らないことも語ってくれています。自分の経験をメンバー全員で共有することで仲間同士のつながりがより強くなった気がします。

次回のテーマもメンバー自身で決め、語りの場を終了しました。

始めたばかりで手探りですが、このような場を続けて「仲間がお互いを支え合う（ピアサポート）」を目指し、メンバーの、メンバーによる、メンバーのための楽しい場を提供することを心がけていきたいと思います。

主役はあなたです。話を聴くだけでも主役です。

みんなで経験を共有し、絆を深めましょう。

お気軽にお立ち寄りください。



語りの風景



サンメンタルクリニックを花いっぱいにするため今春から母倶楽部を発足

●診療科目 心療内科・精神科
●診療時間 AM9:00～12:00
PM2:00～4:00

●休診日 土曜、日曜、祝日
●管理者 三島 由美子（精神保健指定医）
●電話番号 018-838-4862

「診療」、「こころの相談」
ご希望の方は、
あらかじめご連絡願います。

TEL:018-838-4862 FAX:018-838-4863 〒019-2413 大仙市協和上淀川字中嶋33番地 やすらぎの里内

20周年を迎えて

理学療法士 鈴木 真理

平成29年7月1日、サングレイスは開設20周年を迎えました。開設と同時に定員10名でスタートした通所リハビリテーションは、現在20名の定員で、40数名の方にご利用いただいております。私が通所リハビリテーションで勤務し始めた当初は、まだ定員が10名で一日の利用者数が多くて8人、少ない日は4人といった日もあったと記憶しています。

開設となった当初、サングレイスは老人保健事業の一環である機能訓練施設として位置づけられていました。平成12年より介護保険法が施行され、介護老人保健施設として介護保険サービスの一つとなっています。介護老人保健施設は在宅復帰をするための生活期リハビリを提供する「病院」と「住まい」の中間リハビリ施設として位置づけられています。その中通所リハビリテーションは、要介護状態となった場合においても利用者様が可能な限り自宅で、持っている能力に応じ自立した生活を営むことが出来るよう、必要なリハビリテーションを行うことにより心身機能の維持回復を図ることを目的としています。その役割は①日常の継続した健康管理(医学的管理)、②心身機能の維持・改善(リハビリ)、③閉じこもりの予防(ソーシャルケア)、④介護負担の軽減(レスパイトケア)などです。実際には、リハビリテーションの他、食事・入浴などの生活支援、医療ケアなどのサービスを提供しています。

現在利用されている方の半数以上が、疾患発症後何らかの医療リハビリ

テーションを経由しての利用開始となっていて、医療から介護への連携がより強化されているのを実感します。高齢化が進む昨今、地域包括ケアシステムという言葉が耳にしてから数年が経過しました。「高齢や要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる」ことを手助けする役割の一端を、担っていく必要のある施設であろうと感じています。介護老人保健施設としての役割がより明確になってきている今、20年を経て培ってきた施設としての知識と経験をもとに、これからも入所者・利用者ファーストでサービス提供を心掛けていきたいと思っています。



利用者様の作品。自宅で作成し持参してくださる方も。

TEL:018-892-3260 FAX:018-892-3663 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 278 番地 5

介護付有料老人ホーム サンフェザント

サンフェザントでの1年を振り返って

生活科長 高橋 英樹

平成28年10月より協和病院からサンフェザントへ異動となった高橋と申します。協和病院では約20年間、精神療養病棟で看護業務をしてまいりました。この度の異動は施設という事で、まだ開設して5年という事もあり、具体的にどの様な所という情報が自分の周囲でも少なく、期待と不安で一杯でした。でも、実際に来て感じたことは「分からない事も沢山あるけど、なんだか楽しい所だぞ」でした。

サンフェザントの紹介は今までの「広報誌いな穂」を見てくださればわかりますが、入居者に対してのサービスや行事が充実されており、その事に対して職員も妥協無く行っていることが良いところだと思いました。病院での20年間で運動会や季節行事等様々な事をして来ましたが、高齢化や時代の流れと共に行事数も減ってしまいました。

しかし、ここでは季節行事は勿論のこと、ドライブや外食等の施設外レク、施設内での大運動会、映写会、ボランティアの方々による演芸披露等、盛沢山の事が毎月行われます。行事に参加している入居者の皆さんの顔を見ると笑顔があり「楽しかった」と話してくれます。入居者の方にとってサンフェザントは生活の場、つまり「家」であることから、楽しく生活することとはとても大事だと思います。誰でも家にいてつまらない生活は望んではいません。日々の生活も安心して送って貰えるよう、職員一人一人が「家族」のように接して、益々活気のある場所にしていきたいと思っています。

●サンフェザントご利用相談窓口

サンフェザントでは、ケアマネジャーが常時ご相談に応じています。介護保険のことであれば、入居のご相談以外も受け付けますのでお気軽に声を掛けてください。

TEL:018-853-8990 FAX:018-892-3033
〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番地 5
URL: <http://www.keishinkai.net/>





グループホーム サンエルフ

ホーム長 菅原 裕子

サンエルフの日常を紹介します。

この日の昼食のメニューは焼きそばです。入居者の方に調理と盛り付けをしていただきました。焦げ付かないよう注意して混ぜていました。この他にも野菜を刻んだり食器を洗ったりといろいろ手伝いをしてもらっています。

クリスマスには入居者全員にささやかなですがクリスマスプレゼントを渡し、記念撮影をしました。突然のプレゼントに皆さん驚き喜んでいました。

入居者各々の誕生日にお祝いをします。この日の食事は誕生者の好物が並びました。

冬期間の活動はホーム内のみになります。体操や色塗り等の他にホーム内の掃除に使用するぞうきんを縫っています。「縫ってけるよ」と自ら行おうとする方もいます。毎日ホーム内の掃除をしているので、必需品のぞうきんを作ってもらいとても助かっています。

調理や掃除や洗濯等、家庭で過ごすのと同じようにできる事をする事で健康の維持をはかり、役割を持ち生活しています。今できている事が長くでき続けられるようサンエルフと一緒に過ごしスタッフは支援しております。



調理中



帽子が似合ってます



誕生日にて



クリスマス



誕生日の食事



縫製中

TEL:018-881-6565 FAX:018-892-3639 〒019-2413 大仙市協和上淀川字五百刈田 277 番地 1

グループホーム ケイハウス水仙・なごみ

グループホーム(共同生活援助) ケイハウス水仙・なごみの 運営推進会議を行いました。

精神の障害をとおして、地域の方々と新たな地域作りを目指し、12月22日グループホームの運営推進会議を行いました。当日は、地域の方々、行政関係者、そして利用者さんにもお集まりいただき、活動報告を行いました。委員の皆様からも活発なご意見をいただき有り難うございました。

今後も地域に開かれたグループホームを目指します。



ケイ総合ケアセンター(障害福祉サービスの複合施設) …… 〒019-2401 大仙市協和境字刈谷沢10 TEL:018-881-6166(代)

○自立支援指定相談支援事業あさひ

○グループホーム ケイハウス なごみ(共同生活援助)

○グループホーム ケイハウス 水仙(共同生活援助) …… 〒019-2411 大仙市協和船岡字大袋1の34 TEL:018-892-3011

イオン社会福祉基金よりご支援をいただきました。

マックスバリュ東北(株)様のご厚意によりまして、イオン社会福祉基金よりご支援をいただきました。この基金は、全国の障がい者の方々の自立と社会参加の促進を図ることを目的に1977年に設立され、労使双方が毎月一人あたり50円ずつ積み立てを行い、福祉車両や食料品等の贈呈を行っているものです。

昨年の12月22日、当法人運営のグループホームケイハウス「水仙」の皆さんを対象に、また今年の2月2日にはグループホームケイハウス「なごみ」の皆さんにそれぞれ、お寿司、飲料水等のご提供をいただきました。



マックスバリュ東北(株)協和店長
松本様より理事長へ目録の贈呈



豆まき終了後に
イオンの皆さんを囲んで

第5回慧眞会合同研修会が行われました。

2月24日(土)、協和市民センター「和ピア」にて法人の合同研修会が行われました。当日は、雪は降らなかったものの、どんよりとした寒い曇り空でしたが、法人職員およそ100人が参加し、熱気溢れる研修会となりました。会場では、様々な工夫をこらした研究発表が行われました。

午後からは、特別講演として仙北市民福祉部 包括支援センター所長 浅利和磨 先生をお招きし「医療と介護の連携」と題してご講演をいただきました。フロアからは活発な質疑が行われ職員の熱心さが伝わってきました。

この研修会を通して各部署から発信された情報を共有し、スキルアップはもちろん法人内での効率的な連携が構築できればと思います。



こころの健康出前講座を行っています。



出前教室の風景



地域住民の方のこころの健康に関する意識向上と、精神の疾患(障害)に関する正しい知識と理解を深めていただくために、専門の職員が直接地域へ出向き一時間程度の講義を行う「こころの健康出前教室」を行っています。

ご利用については、慧眞会事務局総務部(藤田)まで
☎018-892-2881

「幸せの方程式」

先日ラジオを聞いていると、ブータン国民の幸福感についてのニュースが流れてきました。ブータンはヒマラヤ山脈の麓の小さな王国で面積は九州ほどしかありません。その国民の幸福感は「幸せの方程式」と言われ、幸福量は、財産量を欲望量で割った数値といわれています(幸福=財産/欲望)。私たちは財産を増やせば幸福につながると思いがちですが、ブータン国民には分母の欲望を抑える考え方がごく自然に根付いているようです。

確かに、欲を抑えられれば他人をうらやむ感情も小さくなるような気がします。日本にも「足るを知る」という似たような考え方がありますが、欲望のかたまりの自分には耳の痛い話です。

この冬を振り返ると、豪雪の合間にも小さな春の陽射しに励まされながら、耐え忍んだ厳しい季節でした。もたざるところでの幸福感を尊び、小さな幸せを見つけ出せるような、そんな生き方を心掛けていければと思うこの頃です。

患者さんの権利に関する宣言

1. 患者さんは、良質な医療を受ける権利を持っています。
2. 患者さんは、十分な説明を受けて治療を選択する権利を持っています。
3. 患者さんは、自己決定ができない状況にあるときには、法律上の代理人が同意する権利を持っています。
4. 患者さんは、治療に不安や疑問を感じた時には他の医療機関に意見を求める権利を持っています。
5. 患者さんは、治療や処遇に関する不満があるときには関係機関に意見を求める権利を持っています。
6. 患者さんは、自分自身の大切な情報が保護される権利を持っています。
7. 患者さんは、病気になって初めて得られる大切なことを探す権利があります。



医療法人慧眞会

〒019-2413 秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田 277番地 1
TEL 018-892-2881 (代) FAX 018-892-2888
ホームページ <http://keishinkai-akita.net/>